



JCNA通信 第29号

発行日 2021.3.31
発行人 山口 郁乃
編集人 藤井 智恵美
創立 1957 (S32) 年

JCNA 会長からのメッセージ

山口郁乃

みなさま、新型コロナウイルス感染症を克服する新しい年です。
この1年間、世界中が同じウイルスに苦しむという体験をし、長く厳しい分断の時間を過ごしながら、新しい手のつなぎ方を考えてきました。

全国総会、全国大会が見えなくなったJCNAも、歩みを止めて考えています。
黙想会の日にも申し上げたように、前本部顧問司祭飯野雅彦神父様は「私たちはCが付くナースである」ことを強調されました。私たちが今、どんなに切り離された状態にあっても、Cがついていることを忘れなければ救いは周りの方々に及ぶと確信しています。その先に新しい総会や大会の形が見つかるでしょう。

暮林神父様による早春黙想会は、今まであったITのコミュニケーションの方法も信仰を支えるために使えることが分かった一例です。5月には同じ方法で全国総会開催にチャレンジします。支部長様方には相当なストレスと思いますが、やってみましょう。1年の苦しみが何のためであったか、探しながら。感謝のうちに。

JCNA 早春黙想会(2020年度)をリモートで開催しました。

2021年2月11日9時~12時 JCNA本部顧問司祭 暮林響神父様の指導の下
ZOOM利用で行いました。参加者は36名、当日は、ZOOMミーティング参加初体験の方もおられましたが、事前のインフォメーションで何とかみなさまドキドキしながらもつながって、画面の向こうからのお互いの姿に笑顔あるれるご挨拶から始まりました。

暮林神父様は、「黙想会は、神様が直接働いてくださる恵の場、司祭の話はきっかけで、神様の働きは自由なので、「魂によって益となることは何でも活用しよう」、自由な気持ちで参加しましょうと～、「黙想の手引きを」を示していただき黙想会は進んでいきました。

黙想会のテーマは、2020年「第28回世界病はの日」教皇メッセージ

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。

休ませてあげよう」 (マタイ11.28)

★早春黙想会の感想・ご意見を各支部会員の方から
いただきました。
文面はいただいたそのままを載せました。
日本列島～ 桜とともに北上します。



鹿児島支部 Sr.澤 ヤエ子

疲れた者、重荷を負う者は、だれでも私のもとに来なさい。休ませてあげよう。

テーマはとっても良かったと思いました。コロナ過の中で一人一人が何に疲れているのか?? 本人も分からないのに精神的に肉体的に病んでしまっている兄弟・姉妹に出会うなあ～と思えながら過ごしておりました。

文明の利器を通してでしたが、静かに振り返り考える時間を作って頂き、暮林神父様のお話をお聴きしながら、私自身が気づかせて頂きました。コロナ・ウイルス感染症という言葉でしょうか?? 現象でしょうか?? にふり回され「いのちの源」であるお方の現存に向き合っていなかった??と

燃え尽きない芝の事も再認識させて頂きました。

コロナ過だからこそモーセの姿は大切だと感じました。

印象に残った、いくつかのことば：なぜ??ではなく、なんのために!!癒し：病んでいた部分が愛で満たされる。

ご聖体の前で静か座り「イエス様の暖かいまなざし」に招かれていることの喜びを味わわせて頂きました。

コロナ・ウイルスの感染拡大によって、このようにリモートで素晴らしい黙想会が開催されたことは、本当に神さまからのお恵みだと感謝いたしております。計画から実施までの、ご準備などありがとうございました。

大分支部 Sr.牧山 美鶴江

顧問司祭 暮林神父様の導入の「来なさい・重荷を負う者」の歌で、リモートとは言えスーッと参加出来、結びの聖体賛美式は感謝と感動が実感でした。

主題は、マタイ・11・28 からで この言葉は恵みの神秘的な道を示していますと。

私たち自身がイエスのあたたかい眼差し、愛、癒しの心で満たされ、

そのイエスを病む方々に運び寄り添う役割が、私たち JCNA 会員の本来の使命と改めて銘記する機会と成りました。

福岡支部 牧山 幸二様

奇数月の例会は依然として休止したまま。支部総会は書面報告だけで済ませました。福岡県に緊急事態宣言が出されると同時に教区内公開ミサは中止。

3月7日に解除され公開ミサは再開されていますが、まだ暫くは感染対策を緩めることはできません。3月20日はカテドラルで司祭叙階式が予定されており、救護チームに参加する予定です。

2月11日に行われたJCNA早春黙想会にリモートで参加しました。ZOOMというツールを使う初めての機会となりました。離れていても集うことができるという体験ができて良かったです。

広島支部 野村 和子様

リモート黙想は初めてのことで、周りの人にやり方を教えてもらい、始まるまではドキドキびくびくでしたが、いつもは例会に参加できない視力低下の会員さんも参加できて、よく聞こえて、とても喜ばれました。居ながらに参加できて良かったです。自分たちの小グループでも手軽にできると良いです。

広島支部 井上 妙子様

不慣れなスマホでの初めてのリモート。画面が出てきた時は感激でした。JCNA 会員でよかった、とも。

暮林神父様が読んだ病気になった神父様の詩—またとないチャンスをもたらったのだ!・・・心に残っています。全文を知りたいです。また企画されるようお願いいたします。

京都支部 西川 加之子様

2月11日 ZOOM デビュー。内容はともかくリモート黙想会について

黙想会終了時「退室」のボタンをクリックすると、画面がプチッと切れる。これがどこかの会場で行われたら、周囲の環境を見たり、他の参加者と振り返りながら帰路に就くのにと思いました。「余韻」もなく急に日常に戻ります。つくづく黙想会は家を出て、帰宅するまでが黙想会なんだ（ミサもそうですが）と実感しました。

公開ミサが中止の今、典礼の意味や「兄弟の皆さん」に出会う意味を考えています。

名古屋支部 鈴木 光恵様

・ ZOOM でも黙想会ができることがわかり、うれしかった。

御言葉を通して、語られているものが、霊的指導者の神父様を通してかみ砕かれ、補われ、より理解させてくださる『助け手』であることが伝わってきた。

15分の時間で内省することができた。

・ 一方的ではない感じがよかった。分かち合いの機会は無かったが、今後は各々でブレイクアウト機能を利用して5~6人の少人数で分かち合いができる可能性もあると思った。

・ 今回は、初めての試みであったので全て神父様一人が企画・進行であったので、そのためご苦労があったと思われた。何かしら手伝いが出るといいと思う。分業できることを考えていけるといい。

・ 会長さんの挨拶が聞くことができた。久しぶりで嬉しかった。

・ せっかくの ZOOM なので、会員の顔がカメラを通して見えると皆（さん）の反応も分かって良かったが、携帯電話からの参加会員はカメラ機能がないので、お顔が見えず残念でした。

・ 歌はみんなの声が聞こえたらいいだろうという思いから「みんなで歌いましょう。」と声掛けがされた。実際にみんなでそろって歌うのは難しかったけれど、雰囲気を楽しむことができてよかった。

・ 全国の会員と繋がるという、素晴らしい機会だった。

・ 神父様の講話を聴きながらメモをしたい時など、時間が足りないことがあった。事前にレジメ等が準備されていると良かった。

次は北上すると横浜支部なのですが、2名の方の感想をいただいているので、先に東京支部をご紹介します。

東京支部 千田 宏子様

じっくりと神父様の講話聞かせていただき、とても良い時間を過ごせました
ありがとうございました

「看護師になったこと それは召し出し」

そうだとしたら

患者さんから感謝のことばをいただきとてもうれしかった時も、亡くなられる患者さまと最後の時を過ごせた時も、スタッフとうまくいかなくて悩んだ時も、コロナ禍で日常の病院の業務ができなくなっても、みんなで協力して何とか毎日の診療が続けられていることも、私の手を通して神さまが導き行っていることに違いない。

だったら、

今与えられている試練もやりきるしかありません。(課題が満載なのです) 最後まで頑張ります。
元気をいただきました。ありがとうございました。

横浜支部 井坂 玲子様

横浜支部です。COVID19の影響で昨年、会誌”ともしび”の発行以来、会の活動は休止状態でしたが、本部の企画されたオンライン黙想会に5名参加できました。私自身、初めての体験で不安と好奇心と緊張とが入り交じった気持ちで、PCの画面を恐る恐るポチッと押しました。何やら行き交いつつも打ち解けた様子の声と、山口会長や暮林神父様の懐かしい顔が交互に眼前に現れ、「ヤッター！！こんな風に映るんだあ」と妙に興奮しつつもホッとした私・・・。

あちこちキーボードを押しながら、参加された方達の表情も間近に確認でき「文明の利器」に只々興奮しまくりでした。時折映し出される顕示された御聖体が、今日の目的「黙想会」へと誘って心を鎮めてくれました。実は、メールアドレスを登録してくれていた会員にしか事前のお知らせができませんでした。4県に跨がった会員36名には郵便、電話、メール等の手段で情報収集や伝達を行いますが、周知にかなりの時を要します。統一した足並みを揃えることの必要性和困難さを再確認したことでもあり、解決に向けて、今回の体験を足がかりにしたいと思いました。

また、黙想会の素晴らしい内容には触れませんでした。今の状態に沿った深い御言葉に足元を見つめる機会を得ました。たくさんの会員に周知されることを願います。

この黙想会の企画と運営を実行して下さった本部の皆様、暮林神父様に心から感謝申し上げます。

横浜支部 浜松グループ 大西 傳様

私は2020年6月に右乳がんステージⅡbの診断を受けました。7月～2021年1月までの半年にわたる抗癌剤の治療を受けてきました。黙想会に参加したのは、手術に備えて体力の回復を待ちながら、抗癌剤の効果の判断をするための検査を受ける前でした。

今までなら、医療従事者としての参加でしたが、今回は医療を受ける側としても参加することになり気持ちが忙しかったです。

医療従事者として一番心に響いたのは「癒しが虚栄心になることがある」という言葉でした。自分では相手を思いやることができていると思って声かけをしていなかったなあ。「謙遜」の気持ちを忘れてしまったなあと～。

患者として一番心に響いたのは、晴佐久神父様の言葉です。「怖がっていいんです。泣いてもいいんです。自分の心のままに・・・」 本当に怖いんです。コロナウィルスという訳のわからないウィルスが流行っていること、診断するための検査を受ける時、抗癌剤の点滴のために何度も針を刺すとき、手術に向かう時、初めて自分のなくなった胸を見る時。でも必ず神様がいてくれました。あるときフッと軽くなるんです。そして何もなかったかのような気持ちになるんです。そして神様の存在を、自分は神様に導かれマリア様に守られていることを感じたのです。

4月は放射線の治療があります。もう一山残っています。神様に全てを委ね乗り越えてきます。この時に黙想会を開いてくださって心より感謝します。ありがとうございました。

(2021年3月16日 JCNA 会長 山口郁乃様にいただきました mail の文面を
本部書記藤井が 代筆いたしました。)

札幌支部 前田 明子様

この度は本部でリモート黙想会を企画運営していただき有難うございました。
今年度はコロナ禍のため支部の行事や黙想会が中止でしたので、今回の黙想会を楽しみにしていました。

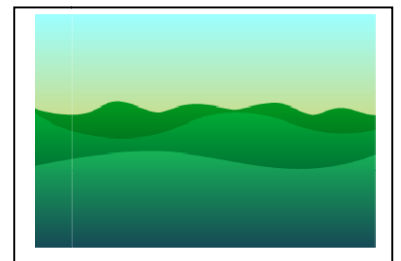
暮林神父様の講話で印象に残ったことは、私たちが経験することを“何故”と問うのではなく、“何のために”この経験があるのかを考えてみる、というお言葉です。自分が困難にあった時に、何故なのかと思いがちですが、この経験・苦しみは何のためにあるのか、どのような意味があるのかを考える機会になりました。また、各講話後には 黙想の手引き（振り返るヒント）を示していただき参考になりました。有難うございました。

▲ 早春黙想会への感想・観想、ご意見ありがとうございました。

COVID-19 の状況の中、集うこともできず JCNA として何ができると本部で模索し、今回の企画になりました。本部顧問司祭の暮林響神父様のもと、ZOOM という IT 環境を準備し、リモートでも同じ時間、同じ空間、講和を伺い黙想の手引きを示していただき、それぞれが神様と対し、何等かの使命を希望を感じられたのではないかと思います。

ZOOM 環境による企画・運営につきましては、いただきましたご意見を次の機会に繋げていけたらと思っております。ありがとうございました。

なお暮林神父様の講和の中で示された、晴佐久昌英神父様の詩「病気になったら」が収められている本は、女子パウロ会出版「だいじょうぶだよ」です。



★ ここで新潟支部の 中村文子支部長様から本部宛てにいただきましたメッセージをご紹介します。

2020 年、あっという間に過ぎてしまいました。
皆様、いかがお過ごしでしょうか？

コロナ渦での JCNA の活動や定例会、また、所属教会でのミサの制限もあり、今でも辛い時期が続いているかと感じます。 感染の拡大防止に気をつけ、周囲への気遣いもされ自分自身や愛する家族をも守り… 気持ちの中では耐えきれない事もあったことでしょう。

ワクチンができワクチン接種を受けたとしても、まだまだ落ち着いた状況にならないかも知れません。
ですが、そんな状況の中でも JCNA 会員の皆様を通して、周りの皆様へ少しでも寄り添い安らぎが得られる存在であって欲しいと感じています

私ごとですが、4月4日復活の主日から観想修道会である、上越聖クララ会修道院での生活が始まります。支部長を退任させていただきます。

JCNA の会員の皆様や各支部の顧問司祭の皆様の活動を、小さな祈りですが修道院からお祈りさせていただきます。
主へ賛美と感謝のうちに 愛を込めて+

★ 札幌支部からうれしいニュースが送られてきました。

2019 年秋、学校法人天使学園(北海道)理事長を長年なさり、日本の看護教育・助産師教育に携えられた近藤潤子先生が、「プリンセス・シーナカリン賞」を受賞されました。

「プリンセス・シーナカリン賞」は、2000 年にタイ王国のプリンセス・シーナカリンの生誕 100 年を記念して創設され、看護や助産などの進歩発展に寄与した人に贈られる国際的な賞です。日本人としては 3 人目です。授賞式は 2019 年 10 月 7 日タイ王国首都バンコクの王室で行われ、プリンセス・マハ・チャクリ・シリントーンから授与されました。

近藤先生は 受賞について「マリア様のみ護りのもと、長年にわたり専門職とその教育に携わる機会をいただきました。その間に国内外の熱意にあふれる専門職とその教育に当たる多くの方々と出会い協働する機会に恵まれました。その成果が評価されたものと思います」とのことです。



なお、さらに近藤潤子先生は 2020 年度アルバート・ネルソン・マーキーズ生涯功労賞も受賞されたそうです。1994 年からマーキーズに収録されておられます。看護と助産の教育・研究の向上並びに専門分野啓発のリーダーシップにおける功績を国際レベルで評価されたということです。

★第 65 回全国総会開催のお知らせ

・開催日時：2021 年 5 月 22 日(土) 10:00~12:00 13:30~16:00

・会議方法：ZOOM によるリモート会議

早春黙想会の時と同様、暮林神父様が招集します。

ZOOM 等の操作につきましてはまたお知らせいたします。

編集後記

JCNA本部に温かなご支援をありがとうございます。

COVID-19 がじわじわと広がって 3 密、行動制限と先の見えない不安の中におりますが、医療現場での現状も感染拡大当初より、はっきりと見え始めその現実にはただただ頭が下がる思いです。現場におられる皆さまには本当に感謝しかありません。ありがとうございます。

そんな中、ZOOMによる早春黙想会が行われたことは、希望の繋がる一歩だと思いました。黙想会という時間空間をいただいて、今自分にできることを改めて前向きに精一杯行っていくことを思い、またホッと自分に返り、前向きになる力をいただきました。

四旬節最後の週になりました。神様からの恵みを思い、祈りのうちに過ごそうと思います。

今後ともJCNA活動をよろしくお願いいたします。

2021.4.2 本部 書記 藤井智恵美

★JCNA2020 年度会長選挙について

選任された選挙管理委員から以下のような文書が来ています（縮小版です）。
みなさまよろしくお願いたします

2021 年 3 月 20 日

JCNA 会員のみなさま

JCNA2020 年度 会長選挙について

選挙管理委員 杉本 澄子（福岡支部）
河崎 淑子（広島支部）

この度本部役員会より、山口会長任期終了に伴う 2020 年度会長選挙管理委員に任ぜられましたので、リモートで行われる第 60 回全国総会における会長選挙について、ご案内申し上げます。下記の要項に沿って、次期会長候補者の届け出をお願いします。

記

募集期間：2021 年 3 月 21 日～4 月 20 日 24:00 必着 以後の応募は認めない。

応募方法：別紙枠に必要事項を記入して選管杉本に送る（いずれの方法でも可）。

宛先 杉本 澄子

郵送：〒805-0015 福岡県 北九州市 八幡東区荒生田 3-1-26-1303

FAX:093-651-2122

Email:sacrament61@jcom.zaq.ne.jp

応募資格：2020 年度開始時点で JCNA 会員であること。カトリック信徒であること。

候補者については締め切り後 4 月 25 日に全支部長宛てメールで紹介する。

投票方法：選管から送られるハガキの候補者名に○をつけて投函する。

結果発表：5 月 22 日、リモート総会で、選管より発表する。

なお、投票権は、各支部長 1 票、本部役員会 1 票である。

JCNA2020 年度会長選挙 候補届出書

立候補の場合	推薦の場合
立候補者名（支部名） 連絡方法：	推薦された者の名（支部名） (推薦されたことを了解していることが必須) 連絡方法：
	推薦した者の名（支部名） 連絡方法：
立候補に際しての所信	推薦者のことば および推薦を受けた者の所信